令和７年度日田市
埋蔵文化財センター企画展

豊かな自然に恵まれた日田市には、数多くの文化的・歴史的資産があります。

江戸時代の日田は、幕府直轄地「天領」のなかでも西国筋郡代官所として、九州の政治・経済の中心地として栄えました。

近年、豆田町などの発掘調査によって、江戸時代の日田の様子を垣間見ることの出来る発見が増加しています。

本企画展は、「長福寺」境内で行われた調査のほか、「永山城跡」「永山布政所跡」「咸宜園跡」の調査などを紹介し、概要を出土遺物や写真パネルで解説するものです。

これらの展示を通して現代に繋がる江戸時代の日田の社会や暮らしに触れていただければ幸いです。

お時間の許す限り、ごゆっくりご覧ください。

日田市埋蔵文化財センター
主催：日田市



展示会場　日田市埋蔵文化財センター展示室
（〒877-0078 大分県日田市友田2893-44 ）

内容についてのお問い合わせは
文化財課埋蔵文化財係
〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1
TEL 0973-24-7171

－（兼）令和6年度発掘調査速報展－

令和7年度日田市埋蔵文化財センター企画展

天領日田を彩る遺跡たち

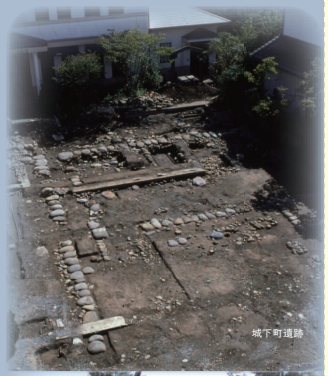
―豆田町を中心とした江戸幕府直轄地の栄えた暮らし―

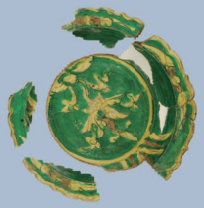

咸宜園跡




永山布政所跡


咸宜園跡


城下町遺跡


城下町遺跡


永山城跡

2025年 10月6日(月)➡2026年 3月31日(火)

休 館 日　土・日・祝日・年末年始
開館時間　午前9時から午後4時

展 示 概 説

文禄2年（1593）に太閤（秀吉）蔵入地となった日田は、慶長6年（1601）に丸山城が造られ、日田藩主石川忠総が永山城に改名し、豆田町も城下に整備されます。

寛永16年（1639）には代官所「永山布政所」が設置され、明和4年（1767）には代官所支配領域が15万石に増加したことにより、西国筋郡代へと昇格し、幕府の九州支配の重要拠点となります。また、代官所を起点に北部九州各地への街道「日田往還」が整備されることで、人や物の往来も活発になっていきました。

代官所の御用達商人は年貢や江戸等への回送金などの財政事務を担うことで公金を運用し、日田金と呼ばれる諸大名への貸付金により莫大な富を生み出していきます。こうして豆田町は商人町へと姿を変え、町割には次第に豪商の屋敷地が現れてゆきます。

政治・経済の中心となった日田には、都市で流行する新しい文物が流入し、有力商人を中心に俳諧や茶道などが賑わいを見せます。このように、人々の文化的素養や学問への関心の高まりによって近世日本最大の私塾「咸宜園」が開塾されることにつながるのです。

今回展示する豆田町の各所の発掘調査によって出土した陶磁器や文字資料などの文物を通して、江戸幕府直轄地の様子を覗いてみましょう。

歴 史 年 表

時代	年代		事項
安土桃山	文禄2年	1593	豊後国が太閤蔵入地となる
	文禄3年	1594	宮木長次郎が日隈城を築城する
江戸	慶長6年	1601	小川光氏が丸山城（月隈城）を築く
	元和2年	1616	石川忠総（譜代大名）が日田藩主となる 丸山城を永山城と改め、豆田町が出来上がる
	寛永16年	1639	島原の乱を受け、幕府直轄領として代官所（永山布政所）を設置
	寛文5年	1665	日田騒動（百姓一揆）により熊本藩の預り地
	寛文9年	1669	長福寺本堂が建立
	延宝元年	1673	廣瀬家が博多から豆田町魚町に移り居を構える。
	天和2年	1682	松平大和守直矩が日田藩として入封。
	貞享3年	1688	松平の転封により天領に復帰
	元禄元年	1688	草野家が現在地に居を構える
	元文2年	1737	小鹿田焼が代官より開窯の許可を受ける
	明和4年	1767	支配領域が拡大し、西国筋郡代に昇格 長崎代官と共に徳川幕府の西国外様大名支配の最重要拠点となる
	文化13年	1816	塩谷大四郎正義代官が着任し、小ヶ瀬井路をはじめとした土木工事を行う
	文化14年	1817	廣瀬淡窓が咸宜園を開塾
	安政3年	1856	廣瀬淡窓が亡くなる。
明治	明治元年	1868	日田県となり、松方正義が初代知事として赴任。
	明治4年	1871	廃藩置県により、大分県が成立し日田県が廃止される。

展示遺跡：永山城跡／永山布政所跡／長福寺／廣瀬淡窓旧宅及び墓／草野家住宅／城下町／咸宜園跡

日田市

ご自由にお持ち帰りください

Buried Cultural Property Investigation Center Special Exhibitions

展示遺跡の紹介

長福寺 国重要文化財（本堂）

【令和6年度調査】
日田市豆田町

九州最古の真宗寺院とされる長福寺では、境内の現存建物の修復工事などの際に山門礎石跡や学寮建物跡などが確認されている。また防火施設整備工事に伴う調査では礎石や石畳などが見つかり、境内に存在したとされる寺社との関連が考えられ、創建当時の寺院の姿が想像される。


墨線のある学寮建物礎石


防火施設整備に伴う発掘調査状況

永山城跡 県史跡

日田市丸山2丁目

花月川北側の独立丘陵「月隈山」に慶長6年（1601）に丸山城として築かれた河原石積みの石垣が特徴的な城で、遺跡内容確認調査のほか、遊歩道整備や平成28年熊本地震被災による石垣の災害復旧工事に伴い発掘調査が行われた。城の規模は小さいながらも、本丸に残る御殿建物の礎石や陶磁器・瓦などの出土遺物からは、城主の暮らしぶりが想像される。


修理中の石垣

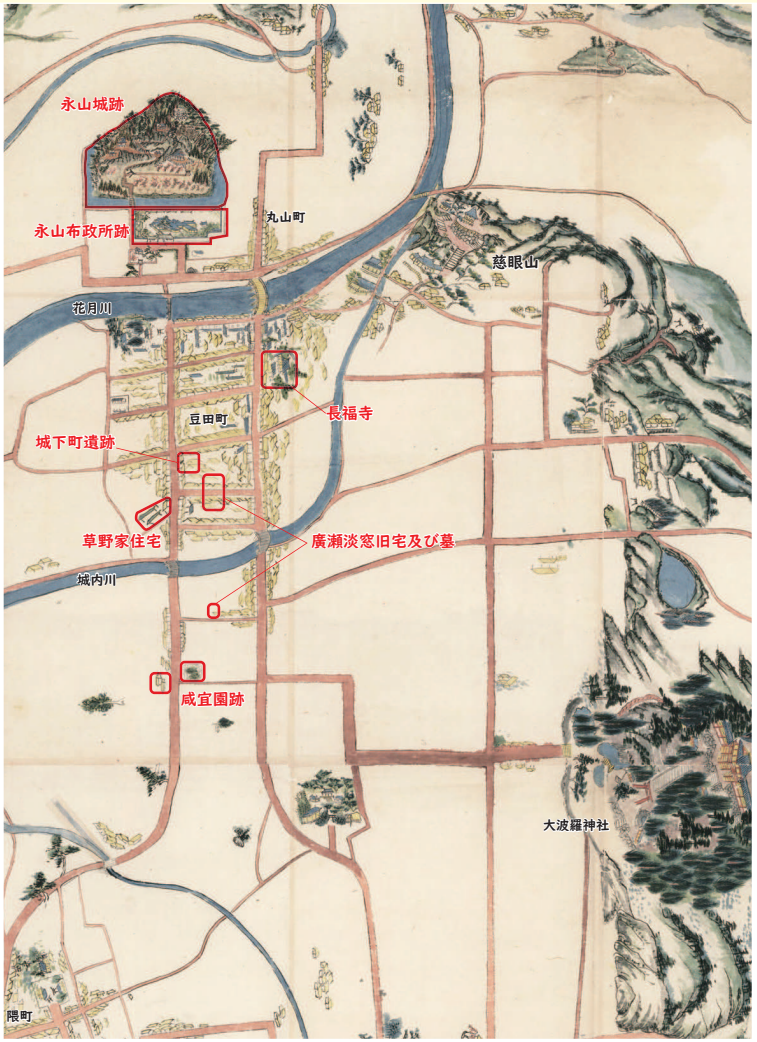

北側堀の石垣

咸宜園跡 国史跡

日田市淡窓2丁目

文化14年（1817）に儒学者廣瀬淡窓が創設した私塾で、史跡整備に伴う調査により塾施設の痕跡などが発見された。これらの遺構から出土した文房具、日常生活で使われる雑器などからは、当時の塾での生活の一端を垣間見ることが出来る。


生活具が出土した整地層跡



豆田町周辺展示遺跡位置絵図

廣瀬淡窓旧宅及び墓 国史跡

日田市豆田町

儒学者廣瀬淡窓の生家で金融業で発展した商家である。主屋建物の修復工事に伴う調査で、埋置された胞衣壷や昭和期に解体された建物痕跡などが確認された。こうした痕跡からは、豪商廣瀬家の繁栄を知ることができる。


胞衣壷出土状況

城下町遺跡

日田市豆田町

18世紀後半頃の複数の建物やそれ以前のカマドや土坑、多くの陶磁器や有力商家にのみ見られる一つ巴の瓦が出土した。絵図から判明している「町年寄」の敷地であることを裏付ける遺物が出土し、短冊形の一般的な敷地に比べて広い区画に防火性の高い建物群が発見された。


一巴瓦


絹島焼皿


調査区全景

永山布政所跡

日田市丸山1丁目

寛永16年（1639）に永山城（丸山城）の南側に設置された代官所（後に西国筋郡代）である。推定地一角の調査で、明治期以降の整地面の下層に用水路などの溝4条、土坑6基以上が確認され、埋土からは陶磁器、「日田御役所」銘の荷札などの木器類が出土した。陣屋構築物との関連が期待される。


小鹿田焼壷


関西系の灰落


調査区全景

草野家住宅 国重要文化財

日田市豆田町

製蝋業などで栄えた居蔵造の大型の商家建築で、大規模修理に伴う調査で、明和9年（1772）の大火と再造成の痕跡、井戸跡などが確認され、豆田町を代表する豪商が火災を経て再興・発展する様子が明らかとなった。


瓦を敷き詰めた再造成痕跡